

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 剰余金の配当 9月30日・3月31日
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
株主名簿管理人事務取扱場所	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
公告の方法	下記ホームページに掲載する。 <a href="http://www.nsg.co.jp/">http://www.nsg.co.jp/</a>
会計監査人	新日本有限責任監査法人

ご住所変更などのお届出及びご照会は、株主様の口座のある証券会社宛にお願いいたします。  
証券会社の口座に当社の株式を預けられていない株主様の株式につきましては、下記の電話ご照会先までお問い合わせください。

### 単元未満株式をご所有の株主様へ

単元未満株式(最低取引単位に満たない1~99株の株式)をご所有の場合、当社に対して、

- (1) 買取請求または
- (2) 買増請求(ご所有の単元未満株式と併せて1単元(100株)に達するまでの株式を買い増すこと)をすることができます。

お手続きの詳細につきましては、一般口座ご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社までお問い合わせください。特別口座の株主様(証券会社の口座に当社の株式を預けられていない株主様)につきましては、下記の電話ご照会先までお問い合わせください。

郵便物ご送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話ご照会先	0120-782-031 (フリーダイヤル)

## 会社概要 (2017年3月31日現在)

商号	日本板硝子株式会社
本店	〒108-6321 東京都港区三田三丁目5番27号 (住友不動産三田ツインビル西館) TEL: 03-5443-9500
設立	1918年11月22日
従業員数(連結)	26,950人
資本金	116,463百万円
上場証券取引所	東京(証券コード: 5202)
お問い合わせ	<a href="http://www.nsg.co.jp/ja-jp/contact-us">http://www.nsg.co.jp/ja-jp/contact-us</a>

### お知らせ

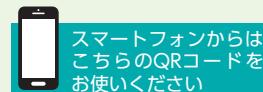
第151期定時株主総会の議決権行使結果につきましては、臨時報告書により、インターネット上で、EDINET (<http://disclosure.edinet-fsa.go.jp/>)に掲載されるとともに、当社ホームページ(<http://www.nsg.co.jp/>)においても開示されます。これらをもって決議通知に代えさせていただきますので、ご了承ください。

#### ホームページのご案内

当社グループのホームページでは、決算情報や最新プレスリリースなど、様々な情報を掲載しております。どうぞご利用ください。

<http://www.nsg.co.jp/>

日本語版



## 株主の皆様へ

日本板硝子株式会社  
第151期 報告書  
2016年4月1日 ~ 2017年3月31日

「ガラス技術で世界に変革を」

## ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに当社グループの第151期(2016年4月1日から2017年3月31日まで)の概況についてご報告申し上げます。当期の業績は、VA化が順調に進展し、また欧州市場の回復や米国市場の堅調さもあり、営業利益は前期を大きく上回ることが出来ました。当社は引き続き、長期戦略ビジョン「VAガラスカンパニー」に変容・変革する”のもとで、新たに策定したMTPフェーズ2の展開により、MTP目標の達成とともに、今後の成長の加速を図ってまいります。



日本板硝子株式会社  
代表執行役社長兼CEO

森 重樹

## 2017年3月期の総括

2017年3月期の業績は大きく次の3点に集約されます。

1. 円高の為替影響を受けるも、営業利益は前期から大きく改善し、最終利益は前期の純損失約500億円から黒字に回復することができました。2016年3月期に実施したリストラクチャリング施策、またコスト削減の効果が発現していると同時に、VA化(高付加価値製品の比率拡大)も順調に進捗しています。特に建築用ガラス事業では、欧州や北米を中心としたVA化の進展が顕著でした。自動車用ガラス事業では、欧州や北米での生産効率改善への取り組みが効果を現し始めています。
2. フリー・キャッシュ・フローは3桁(約203億円)を創出しました。営業利益が大きく改善したことや、運転資本の削減、非コア資産の売却が寄与しました。
3. 2017年3月31日付で総額400億円のA種種類株

式を発行し、自己資本増強とネット借入金の一部削減を行いました。

## MTP フェーズ2について

2016年度上期決算発表に合わせて、2018年3月期～2020年3月期を計画期間とするMTP(中期経営計画)フェーズ2を発表しました。MTPフェーズ2では、引き続き「VAガラスカンパニーへの変容・変革の開始」及び「財務サステナビリティの確立」を基本目標として、戦略の重点化と積極的な施策を追加して目標達成をより確かなものにしてまいります。

具体的には、4つの重点施策(「VA No.1戦略の推進」「成長ドライバーの確立」「ビジネスカルチャーイノベーション」「グローバル経営の強化」)を基盤とした成長施策と、安定的財務基盤の確立のための財務施策を展開してまいります。

「VAガラスカンパニーへの変容・変革の開始」につい

ては、4つの重点施策のうち重要なキーとなる「VA No.1戦略の推進」として、2018年3月期に、イタリアでのフロートガラス製造ラインの再稼働や、日本、米国及び欧州での自動車用ガラスの最新高精度プレス(APBL)の導入を計画しています。また、高機能ガラス事業では、新組成薄板ガラス(glanova®)の販売拡大や高強度グラスコードの加工拠点の拡大を行います。

「成長ドライバーの確立」については、建築用ガラス事業では省エネ・創エネに貢献するコーティングガラスやソーラーパネル用ガラス、高透過ガラスなどが、自動車用ガラス事業ではヘッドアップディスプレイ対応ガラスやディスプレイ一体型ガラス、断熱・遮熱性能を持ったガラスなどが、高機能ガラス事業では新組成薄板ガラス(glanova®)の自動車用途への展開や、マイクロレンズ技術のモバイル遺伝子検査機や各種IT関連機器への展開、また極薄ガラスペーパーの電池分野への展開が期待されます。

「ビジネスカルチャーイノベーション」としては、製造現場における生産効率改善への取り組みの成果が現れ始めています。今後はこれを発展させ、全社的な成果へとつなげていきたいと考えています。また建築用・自動車用ガラス事業ではグローバルマーケティング組織を設置し、マーケティングの強化に向けて活動を進めています。

「グローバル経営の強化」については、グループ全体として最適な組織マネジメントを追求するとともに、人材多様性とインクルージョンを推進するため、ダイバーシティ・インクルージョン推進室を設置しました。グループ横断的なコスト削減にも継続して取り組んでいきます。

「財務サステナビリティの確立」については、借入金の前倒し削減と借入条件の改善により一層の金融費用の削減を進めるとともに、今後の利益の積み上げによ

り財務基盤の安定化を図ってまいります。

2018年3月期も建築用や自動車用ガラス市場はグローバルで緩やかに回復する見通しです。当社グループのROS\*は着実に改善しており、2020年3月期はMTPの目標である8%を目指します。2018年3月期を成長戦略へのギアチェンジの年と捉え、MTPの確実な達成に向けて、全社一丸となって取り組んでまいります。

\*ROS:売上高営業利益率(無形資産償却前営業利益ベース)

## 配当について

当社グループは持続可能な事業の業績をベースにして、安定的に配当の支払いをすることを利益配分の基本方針としておりますが、当期の期末配当につきましては、誠に遺憾ながら実施を見送ることとさせていただきます。株主の皆様には、誠に申し訳なく、深くお詫び申し上げます。当社グループは、配当が株主の皆様にとって重要なものであることを認識しており、MTPフェーズ2を着実に実施し、今後少しでも早く復配できるように収益改善に全力を傾けていく所存であります。

## 最後に

当社は、2018年に創立100周年を迎えますが、将来にわたり当社グループがさらなる発展を遂げるよう、全社一丸となって株主価値の向上に努めてまいります。株主の皆様におかれましては、引き続き当社グループへのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2017年6月7日

日本板硝子株式会社  
代表執行役社長兼CEO

森 重樹

## トピックス

### モバイル遺伝子検査機の開発に成功

当社、産業技術総合研究所(産総研)、及び株式会社ゴーフォトンの共同開発チームは、JST先端計測分析技術・機器開発プログラムの一環として、「モバイル遺伝子検査機」の開発に成功しました。

従来の細菌やウイルスなどの遺伝子検査装置は、大きく高価で検査にかかる時間も長いため、専門施設でしか利用できませんでした。

しかし、開発チームは、小さなプラスチック基板で目的の細菌やウイルスの遺伝子を高速に増やす産総研の技術と、その遺伝子の量を高感度で測定できる当社独自の小型蛍光検出技術を組み合わせることで、高精度のまま小型化と検査時間の短縮を実現しました。

今後、医療現場だけでなく工場などの食品衛生、環境汚染調査のほか、空港や港湾で感染症予防の水際対策での使用など、幅広い分野での活用が期待されます。当社はこのモバイル遺伝子検査機の年内発売を目標に製品化を進めています。



### 米国バーセールズ工場でフロントガラス用最新高精度プレス設備を導入

当社は、米国ケンタッキー州バーセールズの自動車用ガラス工場において、750万米ドルを投じて、フロントガラス(合わせガラス)製造用の最新高精度プレス(APBL)設備の導入、及び既存設備の改修を行います。

複雑形状で面精度の高いフロントガラス製造のために開発された、当社独自技術による高精度プレス工法は、人気が高まるヘッドアップディスプレイ(HUD)に対応するフロントガラス製造の中核技術となるものです。当社はこれからも、HUDなどの運転支援システム関連技術の進歩により、急速に拡大する顧客ニーズ(高面精度のニーズ)にお応えしていきます。



### 400億円のA種種類株式発行により自己資本を増強

当社は、2017年3月31日付で総額400億円のA種種類株式を発行いたしました。

このA種種類株式は、普通株式の希薄化を抑制しつつ、早期に財務基盤の改善を図り、財務サステナビリティの確立を目指していくためには、資本性のある資金調達の実施による自己資本の増強が必要かつ適切という判断の下、2017年3月24日開催の臨時株主総会においてご承認いただき、発行に至ったものです。

調達しました400億円のうち約半分は、MTP(中期経営計画)フェーズ2の重点施策実行に必要なVA化(高付加価値製品の比率拡大)に向けて、「当社の強みがある分野」と「成長が見込める分野」におけるリーディングポジション獲得を目指す「VA No.1戦略」に沿って重点的に投資をしていきます。残りの約半分は、借入金返済に充当し、有利子負債削減、更なる金融コスト削減という好循環を生みだすことで、MTPフェーズ2の下支えとしていく計画です。

## 連結業績ハイライト

### 連結損益計算書(要旨)

	第151期 (2016年4月1日～ 2017年3月31日)	第150期 (2015年4月1日～ 2016年3月31日)
売上高(百万円)	580,795	629,172
営業利益(百万円)	29,862	19,362
税引前利益(△は損失)(百万円)	14,751	△37,439
当期利益(△は損失)(百万円)	7,292	△47,500
親会社の所有者に帰属する当期利益(△は損失)(百万円)	5,605	△49,838
親会社の所有者に帰属する基本的1株当たり当期利益(△は損失)(円)	62.04	△551.75

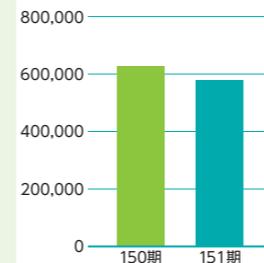
注: 当社は、2016年10月1日付で普通株式10株を1株に併合しました。「親会社の所有者に帰属する基本的1株当たり当期利益(△は損失)」は第150期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し算定しています。

### 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

	第151期 (2016年4月1日～ 2017年3月31日)	第150期 (2015年4月1日～ 2016年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	30,429	21,789
投資活動によるキャッシュ・フロー (フリー・キャッシュ・フロー)	△10,152	△26,401
財務活動によるキャッシュ・フロー	16,398	△5,908
現金及び現金同等物の期末残高	79,808	46,162

### 売上高

(単位:百万円)



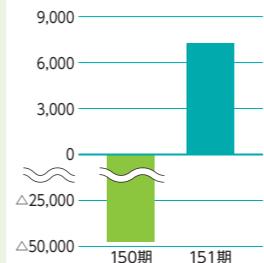
### 営業利益

(単位:百万円)



### 当期損益

(単位:百万円)



### 連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

	第151期 (2017年3月31日)	第150期 (2016年3月31日)
非流動資産	527,818	571,417
流動資産	262,374	240,703
資産合計	790,192	812,120
負債合計	656,484	700,109
資本合計	133,708	112,011
負債及び資本合計	790,192	812,120

### 事業別連結売上高構成比



● 建築用ガラス 欧州	14%
● 建築用ガラス 日本	12%
● 建築用ガラス 北米	6%
● 建築用ガラス その他地域	9%
● 自動車用ガラス 欧州	22%
● 自動車用ガラス 日本	10%
● 自動車用ガラス 北米	14%
● 自動車用ガラス その他地域	5%
● 高機能ガラス	8%

注: 当社は、第146期より国際会計基準(IFRS)に基づいて連結財務諸表を作成しています。上記に記載の営業利益は、個別開示項目ベースの営業利益を記載しています。